

授業改善書

科目名	ジェンダー学
担当者	杉浦 浩美

授業の概要

「ジェンダー」という言葉自体を授業で初めて耳にするという学生も多い。よって、ジェンダーとは何か、基本的なところから理解できるよう、丁寧に授業を進めている。さらに、ジェンダー学は具体的な社会事象や社会問題と結びつけて考えてもらうことが大切となる。今期は過労死問題について、過労死遺族の会と弁護士の方々をゲスト講師として呼び、過労死が日本の深刻な社会問題となっている現状や要因について話していただいた。それを受けて翌週は、過労死がなぜジェンダー問題なのかを詳しく解説した。こうした授業の積み重ねによって、学生自らが社会問題に関心をもち、それについて考察する態度を身につけてもらうよう指導している。

授業の問題点

「授業内容」「授業方法」「授業満足度」については、3限、4限ともほぼ4.5以上という、概ね高い評価を得ている。2コマを通して4以下の評価となっているものは、学生自身の学習態度にかかわるもので「授業外学習をしましたか」「質問や発言をしましたか」のみである。それらについても、大教室であるという制限のなかで工夫をした結果、ポイントは改善しており、特に問題点はないと感じている。

授業改善の課題・方策

評価アンケートの記述欄では、「社会の問題を丁寧に紐解いていく、授業がとても分かりやすく、面白かった」「様々な視点からジェンダーについて学ぶことが出来て良かったです」等の記述があった。来年度も、タイムリーな社会事象を具体的に取り上げながら、学生自身の問題意識を掘り起こしていくような授業を心がけたい。

その他